

第9期宇治市生涯学習審議会 会議録

名 称	第9期宇治市生涯学習審議会 第11回審議会						
日 時	令和3年3月30日(火)午後2時~4時						
場 所	生涯学習センター 2階 一般研修室						
出席者	委 員	○	市橋 公也	○	佐藤 るり子	○	向山 ひろ子
		○	内田 徹	○	杉本 厚夫	○	森川 知史
		○	奥西 隆三	○	長積 仁	○	六嶋 由美子
		○	切明 友子	×	中本 裕也		
		○	桑原 千幸	○	西山 正一		
		○	小宮山 恭子	○	林 みその		
	事 務 局	×	伊賀 和彦(教育部長)				
		○	上道 貴志(教育部副部長)				
		○	林口 泰之(教育支援センター長)				
		○	福山 誠一(教育支援課長)				
		○	齊藤 政也(生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長)				
		○	宮本 義典(生涯学習課副課長(兼)生涯学習センター主幹(兼)生涯学習係長)				
		○	高橋 紀子(生涯学習課事業係長(兼)生涯学習センター主査)				
		○	森川 円(生涯学習課生涯学習係主任)				
○	木口 悠(生涯学習課生涯学習係主任)						
傍聴者	3名						

会議要旨は、下記のとおりである。

• 第10回審議会の会議録について

修正がないことを確認し、ホームページで公開する。→委員了承

1. 協議事項

➤ 今期の審議事項について

(事務局)

前回の会議で皆さんからいただいたご意見をもとに報告書を修正したので説明させていただきたい。

まず、1ページの「はじめに」については、委員長にまとめていただいた。2ページの1.宇治市におけるコミュニティ・スクールの設置(1)コミュニティ・スクールの理念と設置の経緯では、前段でコミュニティ・スクールの理念を明確に提示し、イメージ図を掲載した。4ページの(2)コミュニティ・スクールの構想では、意図が伝わりにくいところご指摘があった、自転車を使ったイメージ図を改良し、説明を加えた。5ページの①から6ページの⑦について、宇治市における教育課題を並べていたが、各教育課題に対するコミュニティ・

## 第9期宇治市生涯学習審議会 会議録

スクール(以下、CS という)の可能性を付け加えた。8 ページから 11 ページの 2. コミュニティ・スクールの組織運営についても、内容を整理し、表現等について微修正した。12 ページには委員長職務代理から、結びとして、コミュニティ・スクールに対する想いを述べていただいた。前回まで本編に入れていた提案における委員の意見集は資料編に掲載している。

(委員長)

前回の会議で皆さんからいただいた意見も踏まえて、今後 CS に関わる方々に活用していただけるような分かりやすい内容を目指した。変更点も踏まえて、皆さんからご意見をいただきたい。

(委員)

本日差し替えのあったページの修正点を教えていただきたい。

(委員長)

1 ページの 4 段落目に出てくる、英単語と日本語の順番を、日本語の後に英単語がくるように並び替えた。

(委員)

コーディネーターと学校運営協議会委員の身分と報酬について教えていただきたい。

(事務局)

コーディネーターは学校長の推薦を受けて、市教委が任命する。報酬は、時給 1,000 円程度で週 3 日ほどの勤務を予定しており、有償ボランティアの扱いとなる。学校運営協議会委員は非常勤職員の扱いとなる。

(委員)

男女比の規定はあるのか。

(事務局)

男女比については規定していない。

(委員長)

男女比の規定については検討していただきたい。

(委員)

6 ページ⑤に記載されている内容について、「全て消し去ることができない」と記載されているが、これは SNS の特性であり、いじめの質の問題ではない。情報機器をどのように教育に取り込むのかという点について、もう少し内容を加えてはどうか。

(委員長)

ご指摘いただいた点について、事前打ち合わせでも協議したが、スマートフォンの取り扱いについては家庭教育によるところが大きいため、CS が学校教育と家庭教育の橋渡し役になることで問題解決に繋がる可能性を示した。記載されている携帯電話安全教室とはどういった取組か。

(事務局)

携帯電話会社による携帯電話の取り扱いに関する講習である。その他にも、技術家庭科や道徳の授業で情報モラルを取り扱っている。

(委員長)

子どもたちが情報に接する機会が増えてきている中で、情報の取り扱いに関する教育が遅れていることが課題である。教育でも情報との付き合い方について考えていかなければならない。

(事務局)

子どもたち同士で SNS の書き込みに関する注意をし合う場面も見受けられるようになってきた。これまでの情報に関する教育の成果が少しずつ出てきていると感じている。

(委員)

6 ページの④の 3 段落目に、「保護者の困り感に寄り添い、悩みを抱え込ませないという視点～」という表現があるが、「困り感」という表現が分かりづらいと感じた。また、「悩みを抱え込ませない」という表現が、上から目線に聞こえるので、「保護者の困りごとや悩みに寄り添えるような視点～」の方が伝わりやすいと感じた。

(委員)

表紙の年度の表記について、西暦だけではなく、和暦も併記してはどうか。また、12 ページの「おわりに」の 2 段落目に「高所大所」という言葉が出てくるが、「大所高所」の方が良いと思った。

CS の広報として、講演会ができれば面白いのではないか。

(委員長)

シンポジウムやフォーラムといった市民に理解してもらえる場を設けると良いかもしれない。

(委員)

地域学校協働活動には教職員も参加するのか。地域で活動する際に教職員の方々にご教示いただけると助かる。

(委員長)

教職員の長時間労働が問題となっており、教職員のなり手が不足している中、教職員の負担を増やすことはできない。地域の活動に参加してもらうなら、教職員の仕事を地域で担う必要があるだろう。

(委員)

今後、モデル校 3 校の進捗状況や様子について報告をしていただきたい。

(委員長)

報告を受けるのではなく、当事者意識をもって現場に足を運んでいただき、実際に様子を見ていただきたい。

(委員)

新型コロナウイルス感染症の影響を受けてスケジュールが先送りになったが、宇治黄檗学園では、今年 1 月に学校運営協議会委員を選出し、3 月に学校評議員会をリセットした上で、学校運営協議会を開催するに至った。

(委員)

5 ページから 6 ページの①から⑦の並べ方は何か意図があるのか。

(事務局)

深い意図はないが、相談の多い課題順に並べている。

(委員長)

学校教育として重要な課題を先に挙げている。これまで不登校やいじめ、学力向上等のことを地域で考える機会はなかったが、こういった問題もこれからは地域で考えるという意味も込めて並べている。

(委員)

6 ページの⑦に「子供」と表記されているが、他のページでは「子ども」と表記されているので、統一してはどうか。

(事務局)

「子ども」に統一する。

(委員)

この報告書はどのように活用されるのか。

(事務局)

各校が CS の準備を進めていく途中で、壁に直面した際の手引きとして活用したいと考えている。

(委員)

報告書に正解を求めるのではなく、報告書に書かれている理念をもとに、各校独自の CS を運営してほしい。また、地域の方にも、正解のない取組を進めていることを理解していただいた上で、応援していただきたい。

(委員)

報告書の売りや見どころが伝わりにくいと感じた。地域課題を熟議する場のあり方や、その先に生まれるものが書けたらいいと思う。また、当事者意識を生む方法やアウトプット先を書くと、宇治らしさが出るのではないか。

(委員長)

今期では、宇治スタイルの議論までは至らなかったが、今後 CS を進めていく中で宇治スタイルの構築を目指したい。

(委員)

10 ページの会議の持ち方(熟議)についてに記載されているファシリテーターはどこから生まれて、誰が担うのか。審議の経過を知らない市民が、この報告書を読んだときに理解できないのではないか。

(委員長)

ファシリテーターについて自分で調べて、興味を持ってもらえる方に協力していただきたいと考えている。

(委員)

この報告書の内容を、CSに関わる人だけでなく、幅広く市民に伝える方法を検討していただきたい。

(委員)

150周年を迎えた小学校の今後について学校評議員で考えていたが、若い世代の意見を聞くために、卒業生の子どもたちに問いかけてみた。大人だけで考えるよりも、子どもの意見を取り入れながら進める方が、可能性が広がるように感じる。

(委員長)

子どもからの発信には力があり、OECDのメンバーには子どもが入っている。CSに対する子どもたちからの評価も大事にしたい。

(委員)

将来的には、高校生や大学生にもCSに関わってほしいと考えている。

(委員長)

報告書のはじめにも記載しているが、OECDのラーニング・コンパス2030では、学習者である生徒は、「教師の決まりきった指導や指示をそのまま受け入れるのではなく、未知なる環境の中を自力で歩みを進め、意味のある、また責任意識を伴う方法で、進むべき方向を見出す力が必要である」と示している。こういった力を培うために、社会総がかりで子どもたちの育ちを支援していきたい。

報告書完成までの今後のスケジュールを事務局からお伝えいただきたい。

(事務局)

本日は皆様から頂いたご意見をもとに、委員長と委員長職務代理と一緒に報告書を修正し、完成させたいと考えているので、ご理解いただきたい。

(委員長)

報告書の最終的な調整は、委員長と委員長職務代理に一任していただくよう、お願いしたい。完成後は、委員長と委員長職務代理で教育長に手渡すとともに、報告書に込めた想いを伝えたいと思っている。さらに、報告書は市のホームページに掲載するとともに、市内の小中学校にも配布される。より多くの人にご理解いただけるよう、広報の方法についても検討していきたい。

## ➤ 第10期に向けた第9期生涯学習審議会の総括

(委員長)

今回の議論の中でも第10期に向けた話をすることができた。来期も未来志向で協議を進めていきたい。

## 2. その他

特になし

### • 市教委より挨拶

(事務局)

今期においても、皆様には活発なご議論をしていただき、学校・家庭・地域の連携について貴重な意見交換ができたと感じている。今後は、皆様にご審議頂いた内容を広く市民

## 第9期宇治市生涯学習審議会 会議録

の方々に伝えたいと考えている。広報の方法については、また皆様からお知恵をお借りしたい。委員の皆様には2年間、熱心にご議論いただき、誠にありがとうございました。

- **最後に**

(委員長職務代理)

皆さんの想いが詰まった報告書ができたと思う。このような議論が各校の学校運営協議会でもできることを願っている。